

平成 29 年度 事業報告書

特別養護老人ホームさくら

ショートステイさくら

デイサービスセンターさくら

特定施設さくら

居宅介護支援事業所さくら

高齢者暮らしのサポートセンターさくら

1. 法人事業概要

(1) 法人名 社会福祉法人 横手福祉会

(2) 所在地 秋田県横手市駅前町14番9号

(3) 設立認可年月日 平成21年 8月 10日

(4) 法人事業

第1種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型介護老人福祉施設	特別養護老人ホームさくら	29名	平成22年4月1日

第2種社会福祉事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
短期入所生活介護	ショートステイさくら	20名	平成22年4月1日
地域密着型通所介護	デイサービスセンターさくら	18名	平成22年4月1日

公益事業

事業種別	施設名	定員	事業開始年月日
地域密着型特定施設入居者生活介護	特定施設さくら	29名	平成25年4月1日
居宅介護支援事業	居宅介護支援事業所さくら		平成25年4月1日
横手市モデル事業	高齢者暮らしのサポートセンターさくら		平成29年10月1日

その他の事業 なし

2. 職員状況

種別	平成30年3月31日現在 職員配置数					平成29年度中	平成29年度中
	特養	ショート	デイ	特定	居宅	退職者数	入職者数
施設長	1 (特養・SS・特定兼務)						
事務長	1						
管理者	1		1 (兼)	1	1		
事務職員	2 (1)			(1)			(2)
生活相談員	1 (1)	2	1	1	—	1	1 (1)
介護支援専門員	1	—	—	(1)	1		
介護職員	18 (2)	6 (2)	4 (1)	12 (2)	—	3 (1)	2 (1)
看護職員	1 (4)		(3)	2 (1)	—	(2)	1 (1)
作業療法士			1		—		

管理栄養士 栄養士	1 (1)				—		
調理員	4 (3)				—	1	1
介護補助員	1 (2)	—	—	(1)	—		(1)
清掃員	(3)						(1)
用務(営繕)	(1)						
合計	92名(うちパート29名) *2名の産・育休者を含む					6 (3)	5 (7)

()内の数字はパート職員の数

3. 職員会議、委員会等活動報告

(1) 全体会議

開催日 : 平成29年4月1日
出席者 : 理事長、施設長以下、法人全職員対象
内容 : 理事長訓示、辞令交付、新入職員紹介、事業部実績ほか周知事項連絡、処遇改善加算についての説明(介護職員のみ)

(2) 運営会議(リーダー会議)

開催日 : 毎月15日 11時から1時間
出席者 : 施設長、事務長、各事業所管理者、相談員、リーダー、栄養士、看護師
介護支援専門員
内容 : 前月の各事業部の運営状況の報告や、課題に対し改善に向けた意見交換、確認事項の周知徹底を図る。

(3) サービス向上委員会

活動目標を「お申し出やアンケート等、第三者の意見を反映できるよう環境改善に努める」「権利擁護、身体拘束、虐待防止に向けた取り組みを図る」として取り組んだ。

さくら独自の身だしなみチェック表で、年に2回個々に自身の身だしなみについての確認を行った。次年度は、サービス提供時のマナー心得・挨拶・言葉使いについての自己点検表に変更修正し、相手の人格を尊重したマナーや言葉使いを意識して接することができるよう、向けていく。

お申し出に関しては特養8件・特定4件・デイ6件・ショート4件・厨房1件で、28年度と同様。内容の多くがサービスの質的問題や職員の態度が原因で、気を付けていれば防ぐ事ができた内容であった。毎回同じような事が繰り返されており、部署問わず全体で再発防止できるような取り組みの検討が必要である。(どうしても他部署で起きたことを参考にできていない部分があった)権利擁護についての研修会では、事故防止委員会と重複している身体拘束と虐待は除き、権利擁護を主に開催したことで、深く掘り下げた内容となった。

(4) 研修委員会

職場内研修を通じて、コンプライアンスの徹底と職員の資質向上につながる活動に取り組んだ。29年度から階層別研修を実施し、職員の知識・技術に具体的に反映できるような工夫をしたが、階層別の比率が事業所によっても差が見られ、参加調整が難しいとの意見もあった。前年同様、他委員会との共同で事例検討や身体拘束、権利擁護等についての知識を深めたが、担当講師が職員ということもあり、狎れが真剣さを欠く場面も見られた。外部講師による感染症対策の研修では、実際の場面を想定し対処法を学んだ。毎年同じ研修を繰り返すことでその重要性を身をもって感じているようである。腰痛予防についての研修では、興味を持って臨んでいた。接遇研修は、都合により実施出来なかったことが残念であった。

今後は、研修内容（目的・時間・開催時期・対象者）を見直し、参加率の向上と職員の更なるスキルアップにつながるものとした。

(5) 事故防止委員会

各事業部からあがった事故内容や困難事例についての検討と、事故・虐待防止に関する内部研修の実施を主な活動とした。発生した事故については、事業部ごとに発生後の対策に対しての評価を行っているが、それぞれのものとなっており、事業所の枠を超えてその対策が生かされず、その後も同一内容の事故が繰り返されていたことは残念であった。これについては今後事業部内の委員が積極的に係っていくことを意識して行っていく必要があると感じた。

研修に関しては、経験年数 5 年未満・以上とスキルに合わせ実施したが、委員だけで内容を考えるのは難しかった。又、研修会も事故防止委員に限らずベテラン職員を講師としてことも必要ではないかと感じたが、普段仕事の中で意見交換をする場も少ないことから、それぞれの考え方や意見など、参考に出来る点も多くあり、今後の業務への取り組み方や考え方として学ぶことができた。

課題として、事故報告書とひやりはっと、事故報告書と内出血報告書の区分が各事業所ごとにバラつきがあり、見直しの必要性を感じている。

*29年度事業部別 事故・ひやりハット件数

	特養	S S	D S	特定
ヒヤリハット件数	27 件	52 件	13 件	40 件
事故報告件数 (うち行政報告)	42 件 (1 件)	33 件 (5 件)	16 件 (5 件)	28 件 (4 件)

事故内容の内訳

*特養—介助中にできたと思われる内出血や表皮剥離などが 12 件と最も多く、次いで転倒や転落が 11 件。薬に関するものが 8 件、爪切りによる出血（深爪）が 5 件、ほか、異食や衣類を縮ませたなど。

*ショート—ご自身で動かされた件も含めた転倒や転落が 11 件と最多。内出血や表皮剥離が 6 件あったが、こちらも自身での動きからできたケースもあった。ほか、衣類の脱色や持ち物の取り扱い時に壊してしまったケースで 5 件。ほか、薬に関してが 4 件など。

*デイ—送迎時の接触事故が 4 件と多かった。幸い車同士や利用者宅の塀にぶつけてしまったもので、利用者には怪我なく済んだが、十分に気を付けていかなければならない。職員の添乗がある場合には、必ず一名は降りて誘導することを徹底した。

ほか、ご自身で移動した時の転倒や尻もちが 5 件。同姓同名の方の計画書の入れ間違いなど、情報を流出した件もあり取り扱いには今まで以上に気をつけ対応していく。

*特定一居室内での転倒が 18 件（同一利用者が 2 名）。ほとんどがご自身で動かされた際に転んでしまったものである。

本人の思いと身体状況のバランスをみながら関りを持つこと、また本人・家族を含めた情報共有が重要である。

(6) 感染予防委員会

委員会の目標を「施設内における感染予防と、感染発症時に迅速かつ、適切な対応ができる」とし、新人研修においては、パンフレットを使用し防護用具（マスク・手袋・プラスチックエプロン）の正しい着脱方法を伝えた。また外部講師による研修会では、現場の状況を仮定し吐物処理の方法を学んだ。

手洗いオーデットに関しては、中止しても良いのではないかとの意見もあったが、正しい手洗いができているか、を確認するためにも継続した。正しく手洗いができていないと判断された職員に対して個人指導を行ない知識と技術の習得を図った。今後はブラックライトを活用し感染予防対策・指導を引き続き行っていきたい。

感染予防対策として、インフルエンザ・感染性胃腸炎の流行期に、各ユニットや玄関にメッセージカード・マスク・うがい用コップを設置。面会者の方々へのうがい・手洗いを励行した。またインフルエンザの警報期には、早期に面会制限を行ったことが感染の拡大防止に繋がったと考えられる。しかし 2・3 月には職員間またはショートステイでインフルエンザ罹患者が増え、予防接種を施行しても罹患をゼロにする事はできず、改めて普段の健康管理・手洗いの大切さを感じた。

(7) 行事委員会

29 年度内の活動については、8 月夏祭り、9 月敬老会、11 月文化祭、3 月さくらシアターを実施した。夏祭りについては開催時期を例年に比べ約 1 か月程遅らせ開催。暑さもさほど感じられず過ごしやすい気候であったが、開始の時間も遅くしたためプログラムが全て終了する頃には、辺りは暗く気温も肌寒い感じであった。次年度は開始の時刻等も含め要検討である。また新たな試みで、出店の一部を外部に委託し職員の負担軽減を図った。結果としては職員の負担はかなり軽減されたが、食数や無料配布の段取り等、改善しなければならない点も多かった。

敬老会に関しては夏祭りの開催時期を遅らせた分、開催までの準備期間が短くなってしまい、バタバタしてしまった。また対象者について間違いがありお申し出に繋がってしまった事もあった為、次年度はそのような事が無いよう対策を立て十分注意し実施する。

さくらシアターでは、開催時期にインフルエンザが流行し、急遽開催日時をずらす事になったが、その中でも対応できる委員で臨機応変に実施出来た事は良かったと思う。全体を通して大きな混乱等は見られなかったが、委員の中でも行事の運営に関わってくる人が限られてしまうことがあった。これに関しては委員長として各行事に委員を上手く割り振れなかった事が原因だと思う。次年度はそこも踏まえつつ、各行事への割り振りを行うようにし、偏りが生まれないようにする必要がある。

(8) 給食委員会

目標を①入居者様・利用者様の声をきく～個々の嗜好を大切に家庭的で暖かみのある食事を提供します～ ②行事食を装飾で盛り上げる～目でも楽しめる、華やかな季節料理を提供します～とし活動した。①の反省としては、入居者様・利用者様の嗜好に添った食事を、個々の状態に合わせて提供できた一方で、食事中に職員等がもう少し積極的に入居者・利用者様の声を引き出すことができれば、より満足したものとなるのではないかと、またその声をお食事感想ノートに落とすことで、職員間の情報共有につなげれば有効的に活用できたのでは、と思われる。②の行事食の装飾は、各行事毎に担当制で行事に合ったお品書きや装飾を作成。年中行事や季節感を入居者様・利用者様に感じて頂くことができた。中には居室へ持ち帰り飾ってくれる方もおり喜んで頂けた。食事は、入居者様・利用者様にとって生活の中での大きな楽しみであると思うので、味だけではなく匂いや作る時の音や雰囲気をも感じたり、昔ながらの料理や旬の物を召し上がって頂く機会を増やしていくことができたなら事業部の稼働率向上にも利用にも繋がるのではと感じた。

(9) 広報委員会

A4 サイズ 6 ページの冊子タイプで年 5 回の発行を実施。各事業部の様子が伝わるよう、生活の様子や行事等の写真を多く使用した。また、施設内研修や地域への取組み（さくらカフェ等）についても施設外へ情報発信し、法人の「見える化」「透明化」に努めた。課題として、写真については事前に「こんな感じの写真も撮ってもらいたい」と職員へ伝えておくことや、掲載内容については利用者様、家族様に知りたいこと等をアンケートで聞き取りするなどをする、広報そのものの役割が広がるのではないかと考える。

(10) 安全委員会

「介護職員によるたん吸引等研修」を安全に行うために設置。29 年度は特養から 2 名の介護職員が参加。3 名の指導看護師の指導の下、安全かつスムーズに研修が行えた。

(11) 入居判定委員会

公平かつ公正な特養・特定施設への入居となるよう、その判定を行うために不定期で開催。施設長・管理者・生活相談員・看護職員・介護職員・栄養士・介護支援専門員等で構成。特養では 15 名、特定では 9 名の方が入居された。

4. 職員研修

(1) 施設内研修

日時	研修内容	講師	開催場所	参加数
4.5.6 月	新採用者研修	各事業部相談員ら	会議室	2 名
6 月～2 月	救命救急講習	横手市消防本部ほか	受講人数合計	17 名
7 月 25 日	腰痛予防について	外部講師（介護労働安定センター）	ダイルーム	22 名

11月6日	介護事故とリスクマネジメント (事例検討会)	事故防止委員会	会議室	19名
11月28日	研修報告会 ① 食事と口腔ケア ② ユニットケアについて	研修参加職員 3名	会議室	22名
12月15日	感染症予防について	外部(横手保健所)	会議室	17名
1月17日	コンプライアンスの徹底・プライバシー保護について	サービス向上委員会	会議室	18名
1月22日	高齢者虐待防止・身体拘束の排除 について(5年未満職員対象)	事故防止委員会	会議室	18名
3月19日	高齢者虐待防止・身体拘束の排除 について(5年以上職員対象)	事故防止委員会	会議室	15名

(2) 施設外研修等

開催日	研修内容	職種・参加人数
5月9～26年日	介護職員等喀痰吸引等研修	介護職員 2名
8月3～9日	前期 講義・実技	(特養)
6月8日	労務管理セミナー	事務長 1名
6月22日	産業看護職・健康管理担当者研修 「介護労働者の腰痛予防対策について」	介護統括リーダー 1名
6月29.30日	福祉施設事業者等職員新任研修	介護職員 1名
7月6.7日	ユニットケア基礎研修会	介護職員 1名
8月23日	秋田県経営協セミナー	事務職員 1名
8月25日	産業保健セミナー「メンタルヘルスと安全配慮義務」	事務職員 1名
8月26.27日	介護福祉士実習指導者講習会	介護リーダー 2名
9月2.3日		
9月4.5日	福祉保健施設・事業者等職員中堅研修Ⅰ(組織性)	介護職員 1名
9月6日	要介護認定調査員新任研修	介護支援専門員 1名
9月21日	改正育休・介護休業法及びハラスメント対策	事務職員 1名
9月11日	食事介助・口腔ケアについて	介護職員 2名
10月5.6日	甲種防火管理新規講習会	介護リーダー 2名
10月11～13日	ユニットリーダー研修	
10月30日～ 11月3日	実地研修	介護リーダー 1名
10月19.20日	指導者研修Ⅰ(組織性)	介護統括リーダー1名
10月21日	高齢者虐待防止セミナー(居宅編)	生活相談員 1名
10月25.26日	個別ケアに関する事業所職員研修	介護職員 1名
10月27日	施設給食担当職員研修	調理員 1名

11月7日	秋田県老施協 決算セミナー	事務職員	1名
11月8日	ITシステムセミナー	事務職員	1名
11月10日	平成29年度 横手市ブロック老人福祉施設連絡協議会 職員研修会	介護職員他	計8名
11月16日	福祉サービスに関わる苦情解決研修会	生活相談員	1名
11月18日	介護従事者講座「記録の理解と実践」	介護職員	1名
11月21日	対人援助技術スキルアップセミナー	生活相談員	1名
12月6日	クレーム対応研修	生活相談員	1名
12月11.12日	認知症初任者研修	介護職員	1名
12月12日	公的支援制度（助成金）説明会	事務長	1名
1月26日	秋田県介護サービス認証評価制度スキルアップセミナー OJT 担当者研修	介護統括リーダー	1名
2月16日	秋田県老施協 在宅担当職員研修会	通所管理者	1名
2月19日	横手市在宅医療・介護・多職種連携研修会	生活相談員他	6名
2月22.23日	秋田県老施協 施設長研修Ⅱ	施設長	1名
3月15日	秋田県福祉・介護事業所エルダー・メンター県南地区研修会	介護統括リーダー	2名

5. 平成29年度 行事報告

開催日時	行 事 内 容
6月14日（水）	全事業部合同自主避難訓練
8月20日（日）	第8回 さくら夏祭り 駐車場にて開催
9月18日（日）	敬老会（午後開始。式典後余興。赤飯やお刺身などの行事食でお祝い）
11月7～13日	文化祭開催（利用者作品展示 最終日にはバザーを開催）
11月16日（木）	消防署立会い全事業部合同避難訓練（当日急遽消防立会いなし）
12月24,25日	クリスマス会（行事食・各事業部で趣向を凝らし実施）
1月1～3日	正月行事
2月3日（土）	節分 豆まき（職員が鬼に扮し各事業部をまわる）
3月3日（土）	ひな祭り（行事食）
3月18日（日）	さくらシアター（映画鑑賞：男はつらいよ）

6. 平成29年度 ボランティア・実習生、視察受け入れ

湯沢翔北 専攻科	介護福祉科 介護実習 1,2年生あわせ	3名
日本赤十字秋田短期大学	介護福祉学科 介護実習 2年生	1名
よつば介護スクール	初任者研修・施設実習先として	6回 延べ15名受入
夏祭り、敬老会ボランティア	高校生、専門学生等	計25名
インターンシップ・職場体験	県南地区高校生	計3名
介護等体験学生	秋田公立美術大学 2年生	1名

7. 平成 29 年度 各事業部稼働率

事業部	定員	営業日数	年間平均稼働率	一日平均利用者数
特別養護老人ホーム	29 名	365 日	96.5%	28 人
ショートステイ	20 名	365 日	81.5%	16.3 人
デイサービス	18 名	311 日	78.3%	14.1 人
特定施設	29 名	365 日	97.5%	28.3 人
居宅介護支援事業所	平均登録者数 65 件		平均利用者数 58 件	

8. 平成 29 年度 まとめ

慢性的に人手が足りない中でも、サービスの質を落とすことなく利用者個々が主体的に過ごすための環境作りを、職員それぞれがその専門性の下で行えるよう取り組んだ。目指すべき方向性でもある「やさしさ、暮らしやすさ、あなたらしさ」を意識し、地域貢献や権利侵害防止に努めた。

地域貢献では、社会福祉法人として住み慣れた地域で暮らし続けられるようサポートするための事業として「高齢者暮らしのサポートセンターさくら」を開設。生活の困りごとに対し、プラットホーム的な役割を担うべく体制を構築できた。また毎月第一土曜日の午前中に開催している「集いの場（カフェ）」は、在宅介護者向けの情報発信や憩いの場となるよう取り組み続けている。

権利侵害防止に向けた取り組みでは、施設内研修のほかお申し出後の速やかな確認と改善で、権利侵害につながらないよう努めた。

離職防止の部分では、定期的な面談の場で働き方についての確認を行いながら進めてはいるが、なかなか止めることはできず。今後は現状に合った具体的な人材育成計画の作成・実施とともに、人材確保の面でも幅広く動いていきたいと考える。職員不足から下半期には、一部の事業所で受入れ人数に制限をかけ対応せざるを得なかった。また利用者の高齢化と重度化もあり、特養では開設以来、年間の退居者数が二桁と多く、離職した後の職員の配置も適切とはいかず、入居対応がスムーズにいかなかったこともあった。その他防災対応では、事業部毎の防災備品の点検や年 2 回の消防避難訓練を行い、危機管理に努めることができた。現場職員も定期的に自己点検を行い、緊急時に備える対応も行っている。

これからも関係各所の皆様のご指導、ご協力をいただきながら、さくらを利用してくださる方々が安心して過ごせるよう、それを支える職員をも支援できる法人でありたいと考える。

以下、29 年度の各事業部の報告をいたします。

特別養護老人ホームさくら

年間稼働率は 96.5%、平均利用者数は 28 名で例年同様であった。開設から丸 8 年が経過し、入居者の身体状況の変化や低下が大きい。入退院の繰り返しや、入院しそのままお亡くなりになったケースもあり、退居者は過去最高の 15 名と、入居者の約半分が一年で入れ替わった形となった。また、入居に関してもスムーズにつながらないケースが増えたと実感した。(特に料金面で)

重点目標の「ユニットケアの構築および推進」では、ユニットケア推進メンバーを中心に、勉強会の開催やユニット目標に対する意識付けを行い、入居者が安心して快適に暮らせるよう取り組んだ。ケアプランを基に、入居者の想いを確認しながらケアに努めてはいたが、関係性の中での狎れ

か、対応が十分でなくご家族からのお申し出が挙がったことは反省すべき点であった。(整容面や物の取り扱い、言葉使い) 職員個の問題ではなく、チームとして特養全体で捉え改善していく。

特養という性質上積極的な行事開催が難しくなっている中、少人数での外出やユニット毎のイベントを工夫しながら行えたことは、入居者だけでなく職員の楽しみ(やりがい)にもつながった。

人生の最期の時間を、ご家族様の想いを汲みながら一緒に過ごせる取り組みを考え、実施していくこともその方にとっての安心につながるのでは、と振り返る中で感じている。

特別養護ホームさくら入居者情報
(年齢構成)

平成30年3月31日現在

年齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男性	0	0	6	1	0
女性	0	2	12	9	0
合計	0	2	18	10	0

男性平均年齢 86.4歳 女性平均年齢 87.5歳 総合平均 86.9歳

(介護度)

介護度	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
男性	0	0	1	6	1
女性	0	1	4	4	12
合計	0	1	5	10	13

男性平均介護度 4.0 女性平均介護度 4.3 総合平均介護度 4.2

・1年間で入院された方・・・9名(心不全、脳梗塞、尿路感染、輸血など)

・1年間で退居された方・・・15名

(施設で看取り介護6名、病院で死亡5名、退院の目途立たず3名、施設で死亡1名)

*特養での取り組み紹介

4/21～25-お花見ドライブ、5/14-母の日(押し寿司、6/18-父の日のお祝い(記念撮影)

7/7-七夕、8/3-花火レク、9/21.26.10/12.17.19.26.116/-ドライブ(ふるさと村、イオン、道の駅、菊祭り)、11/29-居酒屋レク、12/25-クリスマス会、12/28-餅つき、2/3-節分行事

3/3-ひな祭り、3/1.23.30-お楽しみ会(出前やおやつレク)、3/29-アロママッサージ

ショートステイさくら

上半期平均稼働率は86.9%。目標の90%を超える月もあったが下半期は介護職員の不足から、利用者の受け入れ制限をかけた結果、平均稼働率は75.9%と11%ダウン。一日平均利用者数は前年比で1.3人減少した。

29年度の目標を「多様化するニーズに対応し利用者・家族の満足に結び付け稼働率の向上を図る」とし、①ニーズの把握と対応、②関係性、③情報共有の3点に重点を置き関わった。①については、利用中の楽しみ=満足度を高めるため、季節に合わせた行事やレクリエーションを行い、

一日の中で少しでも楽しいと感じていただける時間を意識的に作るようにした。関りの中から本人の想いをくみ取るよう努めたが、一方で認知症の方に対しての支援の難しさも感じた。②は、利用人数が少なかった分利用者とコミュニケーションをとれる時間が持てた、との声もあり、何とも言い難い反省となった。③については、事業所の特徴上情報が継続しにくい部分もあるが、日誌等の活用の呼びかけや会議の時間の変更等で、情報が途切れないよう取り組んだが十分なものではなく、引き続きの課題である。今後も関係各所との連携を図りながら、レスパイトサービス事業所としての役割を果たし、地域の中の重要な社会資源でありたいと考える。

デイサービスセンターさくら

年間の稼働率は78.3%、一日平均14名の利用となった。毎月新規利用者の問い合わせはあるも、希望利用日や環境面（車椅子での送迎や特殊浴槽での入浴）での調整がつかず、利用につながらないケースも少なくなかった。空いた曜日を紹介するスポット利用も活用したが、80%にも満たなかった。特に冬期間は体調や積雪・道路状況に左右される部分も多く、キャンセル分を見越したスポットの利用が必要であったと反省する。医療依存度の高い方の利用受入も行ったが、送迎はもちろん入浴も含め様々な場面での工夫や配慮が必要であった。利用者の中には複数の事業所を利用されている方もおり、「他ではこうだった」などの話もあり、勉強になる部分も多かった。

29年度からは機能訓練の体制が十分にとれるよう作業療法士のほかパート看護師3名で対応した。運動目的での利用が増えてはいるが、自分がやりたいときに行えないなどの声もあり改善の必要がある。ほか、外出レクや物作りなどは本人はもちろん家族からも好評であり、趣向を凝らし継続していきたい。今後も、家族やケアマネジャーとの良好な関係を築きながら稼働率の向上、継続利用に努めていく。

特定施設さくら

退居や入院が今まで以上に多かったが、稼働率は例年通りの97.5%。29年度は退居者の半分が特養への住み替えとなり、入居者の状態像の変化が確実にみられている。特定施設が持つ機能を維持しつつ入居者の状態に合わせた対応を行うには現職員数では足りず。これからはより具体的に地域や家族等を巻き込んだ支援の在り方、施設の在り方を構築することが必要と感じた。

重点目標として取り組んだ1.「ひとりひとりの生活を大切に作る」では、その人らしい生活を送れるよう、個人の想いを大切にしながらの支援を心掛けた。施設には家族や友人らが訪ねて来やすいよう、明るく開放的な環境作りを行った。また、住み慣れた環境での最期を希望する方も増え、その方に合った関りに対応していきたい。2の「余暇活動の充実」では、様々なレクリエーションで楽しんでいただけた一方で、外部を巻き込んだ関りが十分ではなく引き続きの課題となった。

特定施設さくら入居者情報
(年齢構成)

平成30年3月31日現在

年 齢	69歳以下	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上
男 性	1	0	3	2	0
女 性	0	1	13	9	0
合 計	1	1	16	11	0

男性平均年齢 85.3歳

女性平均年齢 87.3歳

総合平均 86.9歳

(介護度)

介護度	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
男 性	0	5	1	0	0
女 性	1	8	3	6	5
合 計	1	13	4	6	5

男性平均介護度 2.1 女性平均介護度 3.2 総合平均介護度 3.0

・1年間で入院された方・・・実人数8名、延べ人数10人

(心不全、骨折、尿路感染、腎盂腎炎、検査入院、脱水・肺炎、貧血、徐脈、胸水貯留)

・1年間で退居された方・・・9名

(特養入居4名、要支援のため1名、退院できず1名、施設で看取り2名、施設で死亡1名)

*特定施設での取り組み紹介

4/23-お花見ドライブ(横手城)、5/2-お茶会、5/14-母の日行事(ちらし寿司作り)

6/18-父の日行事(餃子作り)、6/30-外出レク(外食～ドライブ)、7/7-七夕、

8/31-バーベキュー、10/19-園芸レク、10/31-出前・芋の子会、11/2-外出レク(羽後道の駅)

11/5-外出レク(菊祭り)、11/21-天ぷらパーティー、12/22-忘年会(バイキング)、

12/25-クリスマス会、12/28-餅つき、1/1-正月カラオケ会、2/3-節分行事(豆まき)

3/3-ひな祭り(道明寺作り)、3/27-出前

他、とくし丸(移動販売)、誕生会、らくらく体操、季節や行事に合わせた作品作り

居宅介護支援事業所さくら

目標件数にわずかに届かずも、登録件数・実績と伸びている。利用者の状態や家族(介護者)の想いに寄り添い、概ね適切な支援を行うことができたと評価する。後見人制度を利用している方がおり、市民後見人とも連携を図り支援を行えた。地域包括支援センターとの連携では、事業対象者の受け入れのあたり情報共有しながら関わりを持つことができています。また医療連携の部分では、退院後速やかに介護サービスを利用できるよう、専門的観点からの情報を得ると同時に必要に応じて医師との話し合いの場に同席するなどし、連携を図った。今後もさくらにお願いして良かったと思っただけできるよう、適切かつ丁寧にかかわりをもっていきたい。

高齢者暮らしのサポートセンターさくら

10月から事業開始。横手市と先に取り組みされている法人様からのアドバイスを基に、横手福祉会として取り組むべき内容を検討し、広く市民の方に周知していただけるものとして広報(チラシ)を作成。民生委員との連携も不可欠なことから、実施対象地区の民生委員の会合に出向き事業の説明を行った。3月1日の横手市報でチラシを全戸配布。具体的な取り組みは30年度からとなる。